

# かばた文化を守る

滋賀県高島市 針江・生水の郷



ガイドの女性は「台所で水仕事をしながら、コイが悠々と泳いでいる姿を見ていると、心が安らいでホッとします。朝もかばたの水で顔を洗って一日が始まります」といいます。生水の郷への愛情と誇りが伝わってきました。

組が世界的に高い評価を受けてから。すでにかばたを使う家庭は少なくなっていたが、これをきっかけに地域の人も、「かばた文化」を見直す機運が生まれた。

困ったのは、観光地でもないところに、突然大勢の観光客が押し寄せるようになったこと。かばたは各家庭のプライベートな台所。そこに知らない人がうろついていることが増え、急遽地元でボランティアチームを結成した。見学には予約が必要で、「生水の郷委員会」のボランティアガイドによるさまざまなツアーが行われ、その収益（環境協力費）は地域の環境整備費や、水に恵まれない世界の子供たちへの寄付金にも当てている。

「観光客を呼びたいわけではないんです。多くの人が敷地内に無断で入り込んだり、屋内をのぞき込むケースが相次いだため、ルールを作りました。外からの移住者も地域のために労力や負担金を惜しまないとか、ルールに従ってくれる人でなければ歓迎できません」と、静かに語った。家々のかばたを出た水は水路を通り川に合流、水田で利用されたあと、内湖を経て琵琶湖に入るといふ大きな水環境システムを形成している。水のつながりが人と人、人と自然をつなげている。

## 川上の人は川下の人を思いやり 川下の人は川上の人を信頼して

琵琶湖の西岸、滋賀県高島市の針江地区は、集落のあちこちに比良山系の清冽な伏流水が湧き出る。各家庭の敷地内の湧水（生水）は、集落内にはりめぐらされた水路を流れる水と共に「川端（かばた）」と呼ぶもう一つの台所として利用されている。

針江の暮らしはこの「かばた文化」と共にある。地中に打ち込んだ鉄管（元池）から湧き出る生水は飲み水や炊事に、生水を溜めた壺池は野菜やお米を洗ったり、果物を冷やす冷蔵庫として使う。壺池から出た水は、外の水路から取り込んだ水と一緒に「端池」に入り、食器洗いやなどに使われ、再び水路に戻っていく。

水路の水はみんなが利用するので、「きれいに使う」のはこの地域の人にとって当たり前のこと。自宅の「端池」や水路には野菜くずや食器に残ったご飯粒を食べるコイを泳がせている。

「川上の人は、川下の人を思いやり水を汚さないように使い、川下の人は、川上の人を信頼して暮らしています」。案内してくれたガイドの女性は暮らしの中に働く暗黙のルールをこう説明する。

地域の自然資源を持続的に使っていくには、そこに暮らす人たちが地域の自然を理解し、協働して守り・管理していく作業が欠かせない。そのためには、環境の保全にかか

わるボランティア活動や環境教育も大切だという。

藻が繁殖したり浮遊ごみが溜まると、水路の流れは悪くなり、水も汚れる。地区の人たちは清掃ボランティアとなっ

て水路を塞いだ藻やヨシを刈り取るなどの活動も行う。

針江地区が世界的な注目を集めるきっかけとなったのは、04年にテレビのドキュメンタリーで紹介され、その番



針江地区170戸のうち、約100戸に「かばた」がある。母屋の内部にあるのを「うちかばた」、別棟や屋外にあるのを「そとかばた」と呼ぶ。地下24センチ前後に水脈があり、鉄管を打ち込むと自噴してくる。年間を通じて水温が12～14度に保たれた豊かな生水が湧き出る。